

第5回 大橋川周辺まちづくり検討委員会

議 事 要 旨

【日時及び場所】

日 時：平成18年8月10日(木) 13:30～16:30

場 所：島根県民会館 3階 大会議室

【出席委員】

大橋川周辺まちづくり検討委員会

島田委員長、門脇副委員長、桑子委員(作業部会長)、荒木委員、有光委員、飯野委員、
泉委員、井上委員、大谷委員、岸井委員、木幡委員、後藤委員、林委員、皆美委員

【議事次第】

開 会

挨拶(松江市助役)

(国土交通省出雲河川事務所長)

議 事

1. 平成18年7月豪雨 斐伊川・神戸川流域の被害概要等について
2. 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)について
3. 大橋川周辺まちづくり基本方針 市民意見交換会について

その他

今後の日程等について

閉 会

【配布資料】

資料1 平成18年7月豪雨 斐伊川・神戸川流域の被害概要等速報

資料2 平成18年7月豪雨における大橋川沿川浸水被害状況

資料3 第4回大橋川周辺まちづくり検討委員会 議事要旨

資料4 第4回大橋川周辺まちづくり検討委員会 委員付箋記入内容一覧表

資料5 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)(修正案)

資料6 上・中・下流部それぞれの基本方針を検討するための参考資料

(第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会及び第4回・第5回景観専門委員会の結果より)

資料7 大橋川周辺まちづくり基本方針 市民意見交換会について

【議事概要】

議 事

1. 平成18年7月豪雨 斐伊川・神戸川流域の被害概要等について

・事務局より、平成18年7月豪雨 斐伊川・神戸川流域の被害概要等速報(資料1)、平成18年7月豪雨における大橋川沿川浸水被害状況(資料2)について説明。

・3点セットのうち、上流の2点ができていれば今回の水害はどの程度の被害であったのか。3点セット以外に可動堰や豊堤があった場合のシミュレーションも示してほしい。

斐伊川・神戸川の治水対策は3点セットで考えており、2点では検証していない。事務局

・3点セットありきではなく、1点、2点でも検証してもらいたい。

・今回の水害でどのあたりの被害が大きかったのか。昭和47年の水害(以下「47水害」という。)との違いは何か。

47水害との大きな違いは、雨量が100mm少なく、宍道湖の水位が40cm低かった。被害については橋北では、当時は末次ポンプ場や水門が無かったが、今回はそれらが整備されており、浸水区域が大きく減少した。橋南では、鉄道が高架になったことにより線路は浸水しなかった。車は圧倒的に多くなっており、車の通行によってできる波の被害に関する苦情が非常に多かった。今回の洪水では、大橋川の水位は1時間に4~5cm上昇したが、低下するときは1時間に1cm程度であった。松江の市街地が低いことと、大橋川の水はけが悪いことが改めて検証された。事務局

・資料の中に、もし3点セットができていれば大橋川からの越水による浸水被害が無かったとあるが、浸水面積や戸数に内水被害が含まれているのはおかしい。

浸水面積は、大橋川からの逆流、越水、内水被害も含まれている。それらの面積を精査していないので同じ数字を使っている。事務局

・3点セットがあれば全く被害が無かったかのような誤解を受ける表現や情報操作と取れるような発言は避けてほしい。

・大橋川改修の範囲は、天神川からも越水していることから天神川も含めた範囲を考える必要がある。大橋川改修と排水溝からの逆流に関してはどう考えているか。

浸水メカニズムの検証を行い、当面の対策と内水対策の基本的な考え方を検討する。また、逆流の関係についても事実の検証を行い、対策を検討する考えである。事務局

2. 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)について

・事務局より、修正案作成までの経過について説明。

・桑子作業部長より、大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)(修正案)(資料5)について説明。

・洪水を抑止することはまちづくりのポイントであるが、洪水が起きてしまった場合、都市機能をストップさせないための危機管理についても、まちづくりに取り入れるべきではないか。

- ・ 47水害の体験を教訓に個人で浸水防止の応急対策を行ったが、その当時と周辺状況が変わっていたために、役に立つどころか逆効果で被害を増す一因となったという話も聞いた。こういった事実をどう生かしていくのかも大変大事である。
- ・ 今回の水害では、緊急情報網が新松江市として一元化されていなかったことを痛感した。
- ・ 今までには景観などの感性的・感覚的部分と堤防の嵩上げのようなハード的部分について議論してきたが、情報網の整備や避難体制といったソフト的部分の議論が抜けていたように思う。
- ・ 洪水被害を防ぐための大橋川改修工事を実施することにより、洪水時の一時的な交通の被害以上の、もっと長期にわたる交通問題が起こるし、周辺に住む商売人は経済的な損害を受けることになる。それが心配である。
- ・ 3点セットだけで松江の水害が全て防げるわけではない。それぞれの地域で水害を防ぐことを考えることが必要である。
- ・ 松江の場合は堤防をつくることも必要ではあるが、内水処理を上手にやれば想定以下の中規模な降雨による市内の浸水は防げると思う。3点セットの計画は理解するが、頻繁に起こる可能性のある中規模の水害を防ぐための内水対策を急ぐ必要があると思う。
- ・ 大橋川改修については、拡幅に代わる隧道を作る方法などもあるし、鴨川のような洪水時のみ冠水して流れるだけの川幅を確保する方法もある。また、朝酌川合流点から下流側をもっと広げれば、水の流れが良くなり大橋を架けなくても済むのではないか。
- ・ 大橋川改修事業費の負担は幾らになるのか市民はそれを心配しているし、水害が起こった時の風評被害もあるのではないか。様々な点から経済的な問題を考えておく必要がある。
- ・ 3点セットに示される大橋川改修（拡幅、堤防嵩上げ、掘削）だけでなく、天神川への水門やポンプの設置についても、水害防止対策として整理しておく必要がある。
- ・ 上流部の4つの橋は、それぞれが機能面で位置付けが違ってくるため、交通体系上あるいはまちづくりの中でどのような位置付けにすると良いかが重要になると思う。ただし、松江大橋は景観上綺麗にするが他の橋は機能だけでよいということではなく、全体的に松江の親水性を生かすようにすることが必要である。
- ・ 中心市街地の活性化について検討している駅前周辺、殿町周辺及び松江しんじ湖温泉周辺と関連させ、全体のまちづくりの中でエリア毎にどういう位置付けにするのかを考えたほうがよい。
- ・ 浸水被害のあった地域のなかには人口が減少しているため、住民サイドでの防災能力が低下しているところもある。できるだけ中心部に人が住めるようなまちづくりをして、自助、共助、公助を機能させるようなまちにしていくことが重要と思う。
- ・ 大橋川周辺は、現状が良い風景だという人もいるが、その周辺にも大変良い資産があるため今以上に良くできると考えている。車と人との関係や、町並みとしての風景、中心市街地の活性化の問題、高齢化の問題、これらの問題を解決する一つのチャンスではないか。

- ・まちづくりを一気に進めてしまうのではなく、少しずつまちが良くなっていくほうが生き生きとしたまちを見せることができ良いと思う。事業費の面も考慮して、戦略的に段階的な目標とともにまちづくりのシナリオが書けるとよい。中流、下流についても強引にやるのではなく、移転する家の人々の生活をどう続けていくかということを考えながら順次やっていくことが必要だと思う。
- ・工事による観光客の減少の心配はあるが、まちづくりのプロセスを観光資源とすることもできると思う。
- ・神戸では、まちづくりを一気に進めずに少しずつ変わっていくようにやっている。エリア毎のまちの役割をきちんと設定し、戦略的に時間をかけて本物に近い形でやっていこうとしている。新しいものが常に動いていることがリピーターをつかまえる戦略となる。この事業もそういう考え方をすると、より良いまちづくりに向けた展開ができるのではないか。
- ・4つの橋について、同じような機能を持たせた橋として考えていくのかどうかも議論になる。例えば松江大橋は周りの風景や城下町の資源を併せ考えるとなるべく人に優しいような橋にして、別の橋で車の交通を担う。橋の機能で考え方を変わると、橋のたもとも違ってくるし、たもとにあるべきものも変わってくる。中心市街地の議論も同様である。
- ・ビジョンを描き、それに向かってどういうステップを踏んで進んでいくかは大事なことである。
- ・プロセスを踏んでいくためには、まずは市民が正しい情報をしっかりと共有することが必要である。まずは今回の水害のことについて、どこでどういうことが起こったのか、できるだけたくさんの生の情報を市民意見交換会で提供して欲しい。市民が理解したその後でどうするかを考えるべきである。
- ・市民の方から、「増改築する家は土台を高くするような行政指導があっても良い。」「そういう補助金を出すような制度があっても良い。」という話を聞いた。こういったいろいろな意見を聞き出す機会を工夫してつくっていかなくてはいけない。
- ・鳥取県との協議が進んでいないと聞くが、大橋川を拡幅して水を流せば済む問題なのか。今回の洪水で、中海、特に米子周辺にどれほど影響があったかということも情報として流すべきであり、これを知らせずして我々が勝手に拡げる、浅くしるなど言うことが適当かどうかということも重要な問題である。
- ・斐伊川水系全体を視野に入れ、事業でどういう影響が出るかシュミレーションしないといけない。
- ・今日の委員会では、水害のいろいろな経験や教訓を聞けると思って来たが、「3点セットが機能していたら水害は免れた」と簡単に結論付けをされたら、それだけでは困るとというのが率直な感想である。47水害を全く経験していなかった市民も今回経験した。次回の市民意見交換会ではそういった若い人たちの感想・反応といった市民の方の率直な声を求めていく機会にすべきである。
- ・水害を受けていない地域の方は、大橋川への関心が非常に薄い。まちづくりは、まち全体に関わることなので、大橋川周辺で洪水被害を受けた人たちだけではなく、水害をほとんど受けていない市民に対しても情報提供が必要である。
- ・大橋川の中、下流では天神川の影響が大きく、そこから中海へ水を流せなかったために上流部でも流れなかったのではないか。

- ・行政や河川管理者は、情報提供についてどういったことをしているのかをまとめ、委員の方々の意見を踏まえて改善してはどうか。
- ・災害というのはいつ起こるか分からないが、頻繁に起こることとも想定されるので、今回の教訓を生かすことを早急に考えるべきである。
 今回の災害について、浸水した原因ごとに精査し、改修に併せて調整が必要なものと緊急に対策ができるものとの分類し、手戻りの無いよう総合的に浸水対策を行わなければならない。 事務局
- ・松江大橋は架け替えるべきではないという意見を当初より持っている。架け替えると周辺の風情や町並みが全部壊れてしまうため、今ある松江大橋と新大橋は、湖畔を含めて是非残すべきである。
- ・拡幅せずに今回のまちづくりと水害対策ができれば良いが、水害との関わりを考えると拡幅は必要であり、それに伴って橋の架け替えが必要となることから、架け替えによって更に良いものをつくり、また、それに併せて売布神社等、和多見周辺については特に松江らしいまちづくりをすべきである。
- ・拡幅ありきではなく、他の方法があるのではないかとということと、鳥取県が了解するかという点について懸念をしている。
- ・問題点は、拡幅とかさ上げの2種類があることも認識しておかなければならない。松江大橋は、風情や歴史性など思い入れが随分深い橋だと思うので、今後も地域の中心の橋としてあるべきであると思うし、そうした中であっても橋の性質を考え、橋のたもとのつくり方なども考えなければならぬと思う。
- ・松江大橋の架け替えは、様々な問題点を考慮するとやらざるを得ないと思うので、今後は「より良い松江大橋をつくる」という考え方に切り替えないといけないと思っている。
- ・松江大橋については、現状の橋の風情を最大限生かすということでは皆さん異論はないと思うが、橋を残すかどうかについては議論を深める必要があると思う。
- ・まちづくり基本方針の中に、「松江大橋は松江のまちづくりの中心的な役割を果たす」という表現ぐらいは入れてみてはどうか。
- ・松江の交通の現状を考えると、2橋の架け替え期間や仮設橋の検討など、うまく計画を立ててそれを進めることは至難の業だと思う。
- ・韓国では、市長がリーダーシップを発揮してプロジェクト形式で、公共事業をやめて自然を取り戻すことをすごいスピードでやった事例もある。時間をかけすぎると議論が進まないということもあり、ここでもプロジェクトとしてどれだけ戦略的に上手に行うか、そしてその中に住民の合意形成も組みこまなければならないので、かなり大変なことになると思われる。
- ・橋を架け替える場合、どれくらいの時間とお金がかかるのか。それによって周辺の市町も経済的な影響を受けると思う。
 橋の架け替えは、規模や川の状況などによって異なるが、仮橋の設置も含めると10年まではかからないと思うがそう簡単なものではないため、工事中の影響などに十分な計画を立てて行う。 事務局
- ・まちづくり基本方針に「昭和47年7月及び平成18年7月の大水害の教訓を生かし、水害に強い、安全で安心なまちづくりを進める必要がある」と書いてあるが、これが今回の大橋川周辺のまちづくりの基本的な立場であると思う。このま

ちづくりは、松江市民が安全で安心して住める安心感を与えるようなものでなければならない。

- ・このまちづくり基本方針は、できるだけ多くの市民の皆さんの意見を拝聴し、市民が本当に安心して住めるようなまちになるといった基本的な了解の上で進めていくということが書かれており、よくできていると思う。
- ・今回の議論を含めて、景観専門委員会や市民意見交換会での意見も踏まえながら、まちづくり基本方針の上・中・下流部の枠の中に入るべきことを作業部会で議論させていただきたい。

3. 大橋川周辺まちづくり基本方針 市民意見交換会について

- ・事務局より、大橋川周辺まちづくり基本方針 市民意見交換会について（資料7）について説明。

- ・どのような告知方法で市民を集めるのか。

町内会等を通じてチラシの配布を考えている。また、この委員会の審議状況を記載している情報誌「大橋川通信」にも掲載して新聞折込での配布を行い、更に、関連の治水対策協議会へは説明を行って参加要請を行う。事務局

- ・次回までに市内の内水や逆流による浸水の程度がわかる図を用意してほしい。

できるだけそうしたい。事務局

- ・中海周辺の自治体へも影響を与える事業であり、安来、米子、境港へも意見交換会の案内をしてほしい。
- ・3点セットの説明について、市民へ誤解を与えないような説明を国土交通省へお願いする。
- ・大橋川改修の類似例や、橋の架け替えの前例等について、きちんとした情報収集をしておいてほしい。

その他

- ・今後の日程等について

- ・9月10日、13:30から市民意見交換会を、くにびきメッセ多目的ホールにて開催する。
- ・10月5日に作業部会を開催する。
- ・10月31日に第6回大橋川周辺まちづくり検討委員会を、島根県市町村振興センターにて開催する。

閉 会